

**基本理念** ICTを適切かつ効果的に活用し デジタル社会を主体的に生きる人づくり

**基本方針と主な施策**

- 【方針1】 ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成  
発達段階に応じた情報活用能力体系表の整理・普及 など
- 【方針2】 教職員のICT活用指導力の向上と人材の確保  
先導的にICT活用に取り組むモデル校の指定 など
- 【方針3】 ICTを活用するための環境の整備  
県立学校における教室環境の高度化 など
- 【方針4】 ICT推進体制の整備と校務の改善  
県総務事務システムの市町立学校への導入促進 など

◆ 1人1台端末等のICT機器を授業でほぼ毎日活用している学校の割合

小学校	58.1%	全国 - 7.1%	86.0%	令和7年度 目標値
中学校	35.8%	との差 -26.8%	78.6%	
高等学校	20.7%		52.4%	
特別支援学校	55.6%		73.4%	

出典：小・中学校 …… 令和5年度全国学力・学習状況調査\_学校質問紙（令和5年4月時点）  
高等学校、特別支援学校 …… 県教育委員会独自調査（令和5年10月時点）

**現 状**

※ 端末活用の目標数値について  
小・中学校については**令和8年度に100%**、  
高等学校と特別支援学校については**令和10年度に100%**をめざして設定しています。

※ 左図は、縦軸に小学校、横軸に中学校をとり、各都道府県の回答状況を座標上に○で示したものです。香川県(▲)は、小・中学校ともに全国平均(■)を下回る結果となっています。

令和5年度から、県教育委員会に「教育情報化推進室」という部署が設立されました。ここでは、ICTを活用した教育について、県教育委員会内の各課、また各市町（学校組合）教育委員会と連携を深めながら、香川県全体で一層推進を図ろうとしています。

その施策の第一弾として、上記の計画を策定し、併せて本リーフレットも発行するに至りました。今後も、現場で日々子どもたちとICT活用を進めてくださっている教職員の皆様に資する情報を、リーフレットや動画等を通じて発信したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

香川県教育委員会事務局 義務教育課 教育情報化推進室

# ICTを活用した教育の推進に向けた4つのポイント

『香川県学校教育情報化推進計画』に基づく取組

QRコードリンク先：文部科学省\_動画「1人1台端末で学校が変わる！」

# ICTを適切かつ効果的に活用し デジタル社会を主体的に生きる 人づくり

情報技術の発達やグローバル化の進展等により、社会の変化はますます複雑で予測困難となっています。

そのような中でも、子どもたちが豊かな人生を切り拓いていくためには、一人一人の資質・能力が着実に育まれることが重要です。特に、社会でICTを用いることが当たり前となる中、学校でも子どもたちがICTを主体的・日常的に活用しながら学びを充実させることが求められます。

## 個別最適な学びの充実

✓ 1人1台端末が「文具」になっていますか？

端末が1人に1台あることで、教員が児童生徒個々の状況をデータで把握することに加えて、児童生徒自身が各自の特性等に合った方法やペースで多様に学びやすくなります。端末も文房具のように、あらゆる時間や場面で日常的に活用することが期待されます。

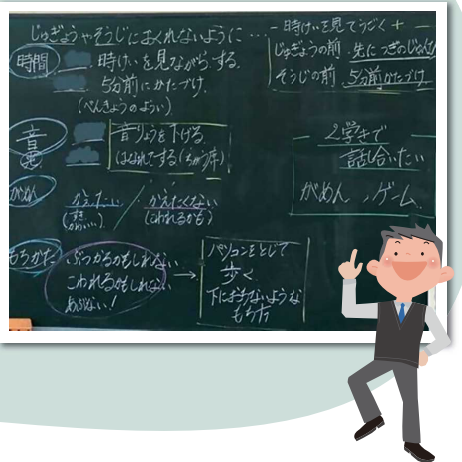


学習者用デジタル教科書を活用し、聞き取った英文を書く練習を行っている様子。文章の一部を隠す機能の度合いを各自で調節したり、分かりづらいところを何度も聞き直したりできます。

## 情報活用能力の育成

✓ 情報教育を「計画的に」行っていますか？

情報活用能力を育成する活動として、例えば、ICTを活用した情報の収集や整理が挙げられます。また、コンピュータでの文字入力など基本的な操作の習得や、プログラミング教育、情報モラル教育等についても、年間を通して計画的に扱うことが重要です。



端末の使い方について、学級内で気になる姿とその対策を、教員と児童が共に話し合った様子。児童生徒の主体性や自治性を大切に、ルールづくり等の取組を重ねることが、適切な利活用につながります。

## 協働的な学びの充実

✓ ICTによる「アウトプット」が充実していますか？

1人1台端末や大型提示装置等を活用することで、文字や動画など多様な形で考えを表現したり、複数の意見を簡便に共有して新たな気付きを生み出したりしやすくなります。アウトプット型の活動が充実すると、児童生徒が他者と関わる姿も自然と増えます。



自分の説明したいことをグラフで表現し、学級全体で学習を深めている様子。表現物を作成する段階でも、ICTの特性を生かすと、複数の児童生徒が共同して編集を行うことができます。

## 校務におけるICT活用

✓ 「教職員自身」が日常的に活用していますか？

毎日のようにパソコンを使っている校務にクラウドツール等を取り入れることで、その負担軽減や見直しが図られます。更に、その取組を転用して授業での活用方法も考えやすくなる等、教職員自身の日常的な活用が、児童生徒の活用にも相乗効果を生みます。



クラウドツールを活用してアンケートを実施した様子。アンケート1つにおいても、電子化することで、印刷時間や費用の削減、紛失防止、集計の自動化等、多くのメリットがあると言えます。

